

電化皮膜工業株式会社(東京都大田区)

【めっき・表面処理】



LEADER

代表取締役 秋本 恭伸 氏

商工会議所のイテオン
ダイバーシティ経営

社員を全員「正社員」として雇用し、幅広い多様な人材の活躍を推進している電化皮膜工業株式会社。「ITカイゼン」により生産性を向上させていることなどが評価され、経済産業省の2015年「ダイバーシティ経営企業100選」にも認定されている。

幅広い年代の多様な人材が活躍

■背景・きっかけ:

社員が厚生労働省の「現代の名工」に選ばれるなど、高度な技術力が強みの同社。社員の高齢化により、技術・技能の伝承に危機感を持ち、2002年、本格的にダイバーシティ経営の取り組みを開始した。とはいえ、3Kと言われる業種ゆえ、新卒はもとより、中途採用でも苦勞の連続だった。

そこで、未経験者や、他社では遠慮されがちな時間に制約のある育児中の女性にも目を向け、積極的に採用。その結果、特定の年代に偏らない幅広い年齢構成になり、技能を伝承する流れができた。

■取組内容・効果:

様々な社員がいるからこそ、秋本社長は個人の事情に配慮している。70歳以上のベテラン社員は体調を見ながら勤務日数や時間を決めることが可能で、育児中の社員は時短勤務をできるなど、社員一人ひとりの状況に合わせた柔軟な勤務形態を認めている。女性だけでなく、男性も子どもの行事に合わせて休みを取るなど、お互いさまの風土もある。「社員は短時間勤務であっても、全員『正社員』。タイムカードもないが、ズルをする者もない。皆、正直に勤務時間を申請している」など、社員との信頼関係が築き上げられている。

また、人材育成にも力を入れている。国家資格や各種資格の取得を勧め、会社が講習や受験の費用を全額負担している。取得後は、一時金としてのお祝い金ではなく、資格の種類に応じた金額が毎月の給与に反映されるようにしている。

そして、女性の採用により、今までとは違った視点で業務を見つめ直すことになり、その女性社員からは「ITカイゼン」が提案された。今まで見積書などの書類が各担当ごとにバラバラだったが、ITカイゼンで見積書から現場への作業指示書、納品書、領収書、請求書と一括管理できるようになり、格段に業務が効率化された。

■今後の展望と課題:

ITカイゼンによる業務の効率化を推進し、生産性を一層向上させる」と、営業・品質マネージャーの廣門 伸治氏は意気込む。IoTを自社だけでなく、業界全体や取引先にも広げていきたいとしている。



中小企業の実践ポイント

- 社員一人ひとりに合わせた柔軟な勤務形態
- 「ITカイゼン」で業務の効率化、生産性の向上

【企業データ】

代表者	秋本 恭伸	会社設立年	1947年	従業員数	38人(男性31人、女性7人)
本社所在地	東京都大田区矢口3-5-10	ホームページ	http://www.dhk.co.jp/		
事業内容	めっき・表面処理				